

小石を撒いて江戸前アサリを復活できるか？

水産土木工学部

研究の背景・目的

近年、日本全国でアサリの漁獲量が減少しています。アサリ資源の厳しい現状に対して、漁場に小石(砕石)を撒くことで、アサリ稚貝の定着が促進され、漁獲につながる事例が三重県で報告されています。千葉県船橋市のアサリ漁場では、着底した稚貝が波浪で岸へ移動し、浜に打ち上げられ死亡する事例が報告されています。アサリの移動を、漁場に砕石を敷設することで抑制し、江戸前のアサリ資源復活に取り組んでいます(図1)。

研究成果

事前調査では、アサリは100~2,120個体/m²の密度でした(図2)。稚貝が多くいる一方で、成貝はほとんど見られませんでした。引き続き、アサリの分布調査を行い、砕石設置の効果を検証していきます。

波及効果

三重県だけでなく、船橋地先でも砕石による漁場造成が、アサリ資源の増大に効果が認められれば、資源の減少が報告されている各地に広めていくことができます。



図1 砕石(上)と漁業者による砕石散布(下)



図2 事前調査で採集されたアサリ稚貝

(本研究は委託事業「船橋地区における砕石造成によるアサリの定着促進の検証調査」の一環として実施しました。)

(生物環境グループ: 佐藤允昭・南部亮元、水産基盤グループ: 井上誠章、
水産土木工学部: 桑原久実)